

BCP

BCP策定を通し関係者の信頼向上・若手スタッフの育成に繋げる!

BCP (Business Continuity Plan) とは、企業が自然災害・感染症の流行などの緊急事態に遭遇した場合に、中核となる事業の継続・早期復旧を可能とするために、平時や緊急時に行なうべきことを取り決めた計画のことです。BCP策定には、自社の経営や組織を見直す契機となる、業務改善や取引先・金融機関の信頼度が向上するなどのメリットがあります。本会は、県内の企業や組合のBCP策定を支援しています。今月号では、実際に支援を活用しBCPを策定した株式会社戸畑ターレット工作所 経営管理部 部長の池田真佐博氏、総務・人事担当のアタムラドフ・サイフィディン氏に話を伺いました。

—BCP 策定のきっかけと目的

池田部長 以前に中央会のBCP策定支援を受けていた取引先企業から支援事業の紹介を受けた事がきっかけでした。

弊社が、BCP策定に取り組んだ主な目的は、取引先や従業員等、ステークホルダーの信頼向上、若手・外国人スタッフの育成です。

弊社は、15年ほど前から、独自の業務改善活動「SU (SpiralUp) 活動」を行っています。これは、5Sを中心とした活動ですが、現場の通常業務の改善を目的としたものなので、全社的な視点を養う事は難しい側面があります。

そこで、若手スタッフを中心となり、BCP策定に取り組む事で、通常業務や部門の壁を超えた視点や知識を身に付けてもらう事を狙いとしました。



様々な工作機械が並ぶ工場



池田部長 (右) とサイフィディン氏 (左)

—作成メンバーに若手スタッフを活用

池田部長 BCPの作成メンバーは、経営管理・生産管理のスタッフから5名を選出。社長が総責任者、私は作成メンバーのリーダーを担当しました。弊社には、社員が新しい事に取り組む社風があります。選出されたスタッフは当初BCPの知識はほとんどありませんでしたが、積極的に作成に参加してくれました。

また弊社は元留学生の外国人社員を3名雇用しています。これは、企業間競争が激化する中、優秀な人材を確保し他社と差別化を図る事、グローバル展開へ備える事が目的です。日本の学生は大企業志向が依然として強く、中小企業が優秀な人材を確保する事は容易ではありません。一方、留学生は日本語能力やチャレンジ精神も高く、仕事にも積極的な傾向があります。

—BCP は現場を知る格好のツール

サイフィディン氏 母国のウズベキスタンから北九州市立大学大学院に留学。卒業後、弊社に就職し6ヶ月目に、BCP策定のサブリーダーに任命されました。

私は総務・人事担当のため、工場の現場に接する機会は多くありませんが、BCPの策定では工場等の情報が必要です。そこでメンバーや他の社員とコミュニケーションを図る中で、短時間で事業内容、設備、社員の技術等を学ぶことが出来ました。

また、ご指導を頂いた専門家の藺田恭久先生や中央会とは、頻繁にメールを行う必要がありました。これらの作業の中で敬語を用いた社外文書の作成ノウハウも得る事が出来ました。また、現在は工場見学の案内も担当しているため、BCP策定で得た知識が、そこでも役に立っています。

—災害の可能性はゼロではない

池田部長 藺田先生から指導を受ける前まで、北九州は災害に強い地域という印象を持っていました。しかし小倉東断層の存在、弊社が川の横に立地しており過去に浸水の被害を受けた事もあり、災害の可能性はゼロではなく、リスクを想定し事前に対処していく事が重要だという事に、改めて気付かされました。



住宅設備・自動車部品等が主力製品



金属加工の技術を活用した製品

—BCP を“定常業務”にする

池田部長 BCP策定後は新聞に取り上げられる等、PR効果は大きかったと思います。金融機関からの評価も高く信頼の向上に繋がっています。またBCPを策定した事を他社に伝えたところ、“自分の会社もやらなければいけない”と、関係者の関心も高いと感じています。

ただ、策定後の社員への周知徹底については、まだ十分に出来ていない状況です。そこで今後は中央会の支援も活用しながら、BCPの運用が「定常的な業務」となるように、社内の勉強会やBCPの改善を進めていきたいと思っています。

お問い合わせ先

企業名：株式会社戸畑ターレット工作所
所在地：北九州市小倉南区新曾根11-31
TEL：093-471-7403
FAX：093-471-7808
URL：<http://www.t-turret.co.jp/>